

令和 7 年 3 月 14 日

令和 6 年度（2025 年度）学校経営報告書

八王子市立第八小学校

校長 高澤 善幸

1 今年度の取組と自己評価

本年度（令和 6 年・2024 年度）も地域・保護者の皆様のご協力を得ながら、本校の教育目標「かしこく（知） 豊かに（徳） たくましく（体） みんなと生きる子（共生）」の実現を目指して教育活動に取り組んでまいりました。本年度の学校の総括として、学校評価について報告いたします。

《かしこく（知）》

重点目標は、昨年度と同様に「かしこく」として子どもたちの学力向上に力を入れてきました。また、校長の経営方針も昨年度に引き続き、「子どもたちの未来を拓く学校 ～根を張り 枝（幹）を伸ばし 花を咲かせる～」として、段階を経て、子どもたちの力を伸ばすことを意識しながら様々な取組を行ってまいりました。

学力を高める上で、まずは学習に向かう姿勢を整えることを重視しました。特に力を入れたのは、約束やルールに従って行動する力です。「八小学びのスタンダード」を念頭に置いた指導を心がけることで、教職員で統一した指導を実施することにしました。人を傷つける「ちくちく言葉」ではなく、言われてうれしい「ふわふわ言葉」の使用を促す呼びかけや、チャイムに合わせた始業・終業、話の聞き方など、どれも大切なことを盛り込みました。どこで誰の授業を受けても、定められたルールに則って授業を受けることで、少しずつ子どもたちの中に学びの習慣が形作られていきました。さらなる改善を目指して、「八小スタンダード」への取組は今後も継続していきます。

学力を向上させる上で大切なことは、教員の指導力の向上です。第八小学校では、教員自身による日々の教材研究に加え、年間に十数回の OJT を実施して、教員が学び合う場を設定しました。主幹教諭や主任教諭、管理職も講師役となって 15 分程度の研修を実施し、個々の学びの財産を、職員全体で共有できるようにしました。年度末には、経験年数の浅い教員を講師として、参観してきた指導教諭の授業や他校の研究授業から学んだことを交流する機会をもちました。さらに、校内研究会では、昨年度に引き続き国語科の物語文を通して読む力を高めるための指導の在り方について研究を深めてきました。読み取った事柄を話し合い等で重ね合わせて、一人では気付かない視点に気付いたり、新たな考えを生み出したりしながら、根拠を基に自分の考えを述べる子どもたちの姿が多く場でみられるようになりました。今年も、研究の成

果はリーフレットにして、八王子教育委員会や市内の小学校に送付して、ご意見を伺えるようにしました。

この他にも、担任による個別指導、学校運営協議会の方を中心として地域の皆様や中学校のボランティア部の生徒の協力を得ながら、放課後学習教室（わくわくスタディ）や夏休み学習教室（わくわくワーク）などを実施し、子どもたちの学力向上を目指してきました。

学校全体では、本年度も俳句大賞を実施し、子どもたちが自主的な作品作りへの意欲や言葉に対する感覚を高められるようにしてきました。図書ボランティアの皆様による1～3年生への読み聞かせも、子どもたちの想像力を掻き立て、読書への興味を広げる上で、大変有効でした。

今後も子どもたちの学力向上に結び付く活動を工夫して実施していきます。

《ゆたかに（徳）》

あいさつについては、これまでと同様に、代表委員や各学年の子どもたちによる朝のあいさつ運動を実施することに加え、あいさつキャラクターを設けたり、あいさつ名人の表彰をしたり、中学校の生徒会と連携して小学校の正門前で2日間のあいさつ運動をしたりする中で、すすんであいさつする子の育成に努めました。今後も、子どもたちが大きな声であいさつできるよう、取り組みを工夫して実施していきます。

言葉の使い方では、「八小学びのスタンダード」の中に、「ちくちく言葉ではなくふわふわ言葉を使う」という項目を起こし、日頃から互いをいたわり、思いやりながら過ごす関係づくりの定着を目指してきました。誰かが倒れた時「大丈夫。」と声をかけて心配したり、うれしいことがあったときに「よかったね。」と喜ぶ気持ちを共有したり、言葉を通して自分と他者との間でスムーズな関係を築くことを目指してきました。人の悪口を含めた乱暴な言葉遣いや暴力などは、残念ながらまだ見られます。この点は、次年度以降も生活指導の重点の一つとして、力を入れて指導していきます。

いじめ対策では、本年度道徳授業地区公開講座において、事前に児童アンケートを実施し、その結果を提示しながらパネルディスカッションを行いました。5・6年生の代表の子どもや講師の先生、保護者と教職員の会の代表の保護者、校長が壇上でいじめについて意見を交換する場を設けました。日常的な取組では、日頃から子どもたちの様子に気を配って観察するとともに、木曜日の放課後のいじめ対応の時間で、教職員による情報交換や、いじめが発生した際の解決への取組について意見を交換してきました。いじめ対策だけではありませんが、個々の子どもたちが抱えている不安や悩みなどは、スクールカウンセラーの活用などとともに、保護者とも連携を取りながら、学校の職員全体で解決に取り組んできました。

不登校への対応では、本年度、南校舎の中に別室登校の部屋である「つながルー

ム」を設置して、不登校傾向にある子どもたちの居場所づくりを行いました。配置された職員だけでなく、子ども若者育成支援センター「はちビバ」の職員にも月に1・2度お越しいただき、コミュニケーションを図るためのゲームを行ってもらいました。本校職員も、「つながルーム」で子どもたちとのかかわりをもつことで、所属学級での学びにつながるケースも出てきました。令和7年度で、運営にあたっている支援員さんへの補助金がなくなるため、令和8年度以降の活動は未定となっているのが、残念なところです。

《たくましく（体）》

本年度は、学級閉鎖を行うことなく、学校の教育活動を実施することができました。今後も、うがいや手洗い、換気、必要に応じたマスク着用など、感染症やウイルスへの対策を講じながら、子どもたちが健康な生活を過ごせるように指導していきます。健康な生活には適度な運動や睡眠、休養なども大切な要素です。引き続きご家庭のご協力もお願いいたします。

体づくりでは、年間を通して、日常の体育や休み時間の活動の中で、子どもたちの体力向上を目指してきました。また、2学期には持久走の取組である「RUNRUN タイム」、3学期には長縄跳びを中心とする「なわとび週間」を実施し、全校を挙げての取組を実施することで、運動に親しみ、自らの体力や運動能力の向上を目指す子どもたちの育成に努めてきました。

食育では、日常的な衛生管理やアレルギー対策を行いながら、栄養のバランスの良い食事を通して、丈夫で健康な体作りを目指してきました。また、6月の食育月間の期間中に箸の正しい使い方を学ぶ「めざせ！おはし名人」や9月に職員ロスについて考える「もったいない大作戦」などを実施し、食事のマナーなどについても考える機会を設けてきました。今後も、望ましい食生活を身に付けられるよう、指導を重ねていきます。

《みんなと生きる子（共生）》

たてわり班活動やクラブ活動、委員会活動などにおいて、異年齢の子どもたちがかかわる機会を大切にしてきました。その中でも、活動の計画や運営など、できるだけ子どもたち自身による自主的・主体的な活動を促すことを心がけ、指導にあたってきました。学級内での係活動も同様に、子どもたちのアイデアを取り入れながら、係活動に取り組む様子が、多くの学級で見られました。

これからも、自分たちの活動や生活を、自らの手で作り出していけるような力を育んでいきます。